

# 子どもの姿に基づく保育を 若手保育者にどのように継承するか —ある保育所の試みをもとに—

中島 寿子\*

Enabling Young Childcare Professionals to Inherit Child-focused Childcare Methods:  
A Case Study of Practices in a Nursery School

NAKASHIMA Hisako\*

(Received September 26, 2025)

本研究は若手保育者のエピソード記録をもとに話し合うクラス会議と、その報告をもとに話し合う園内研修の試みをもとに、子どもの姿に基づく保育の若手保育者への継承について検討した。若手保育者がエピソード記録を書くことは、子どもの姿をよく見て自分の保育を振り返る機会となり、クラス会議で先輩保育者と子どもの思いや考え、願いを読み取り、どのようなことを大切に保育をしていくかを考えることは、子どもの姿に基づく保育を継承する営みとなった。園内研修では子どもの姿に基づく保育の継承について考え合う中で、「保育者の経験に基づく知見」をどのように蓄積していくか、若手保育者が理解できるようにどのように伝えるかをさらに具体的に検討することが重要であることが明らかとなった。日々の保育の中で若手保育者に子どもの姿に基づく保育を継承していくための仕組みづくりも今後の課題となった。

## I 問題と目的

### I-1 保育者の経験に基づく知見の蓄積

保育者には日々の保育の振り返りや対話、記録の充実を図り、子どもの育ちや保育の過程を言語化して共有すること、保育の評価や研修において常に「子どもにとってどうか」という視点から検討することが求められている（保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会, 2020）。また、保育者の経験に基づく知見が蓄積されにくい状況にあることが課題に挙げられており、研修の充実等による資質の向上の重要性が指摘されている（幼児教育の実践の質向上に関する検討会, 2020）。

筆者は課題とされている保育者の経験に基づく知見の蓄積のためには、子どもの姿に基づく保育の言語化を促進することが不可欠であると考えた。そこで、先行研究の知見をふまえてそのための園内研修を計画し、2園の研究協力園（幼稚園・保育所各1園）で2年間取り組んだ。そのうちの保育所（以下「A園」と表記する）では、次のように取り組んだ（中島, 2024, 2025ab）。

①A園で大切にしたいと考えてきた「子どもの主体的な

遊び」をテーマとし、エピソード記録をもとに話し合うことで、保育者が子どもの姿をもとに子どもの思いや考え、願いを知ろうとすることを促した。

②主担任保育者が継続的に参加して話し合うことで、各クラスの子どもの姿や保育について共有し、子どもの育ちや保育の過程を長期的視点で考え合うことができるようにした。

③エピソード記録を書く際には、教師教育プログラム「ALACTモデル」(Korthagen et al., 2001) (図1参照)において自身の行為を「子どもにとってどうか」と振り返るための「具体化を促す問い」と、子どもの姿に基づく保育を考える視点SOAP (河邊, 2019ab) をふまえるようにした。「取り上げた理由・みんなで検討したいこと」「エピソード名」も書くことで、伝えたいことの明確化・言語化を促し、話し合いの視点を持ちやすくなるようにした。

④筆者は園内研修の中で第三者にはわかりづらいことを質問し、保育者が他者に伝わる言語化を意識するように促した。「具体化を促す問い」とSOAPの関係を

\* 山口大学教育学部, 〒753-8513 山口市吉田1677-1, hisako-n@yamaguchi-u.ac.jp

表1 「具体化を促す問い」(Korthagen et al., 2001) とSOAP(河邊, 2019ab)の関係

1. 私は何をしました?	doing	5. ○ちゃんは何をしました?	←S(幼児の姿)
2. 私は何を考えていた?	thinking	6. ○ちゃんは何を考えていた?	←O(読みとり)
3. 私はどう感じていた?	feeling	7. ○ちゃんはどう感じていた?	
4. 私はどうしたかった? (何を望んでいた?)	wanting	8. ○ちゃんはどうしたかった? (何を望んでいた?)	A(どのような経験をしてほしいか)
			P(そのためにどのような環境構成・援助をしていきたいか)

注)「具体化を促す問い」の5がSOAPのS(子どもの姿)、6・7・8がO(読み取り)に対応すること、そこからA(保育者としてどのような経験をしてほしいか)、P(そのための環境構成・援助)と考える過程を理解できるように整理した。

表2 ポートフォリオ記録用紙の様式

日付	気づき	気づきを今後の保育にどのようにいかしていきたいか	備考
○月○日(○) 第1回園内研修			
○月○日(○)			

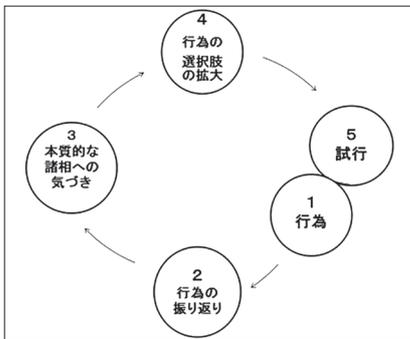


図1 ALACTモデル(Korthagen et al., 2001)

整理したレジュメ(表1参照)を配付し、子どもの姿をもとに「子どもにとってどうか」と保育を振り返り、その後の保育について考えて言語化するための支援もした。

- ⑤園内研修後に保育者は「気づき」「気づきを今後の保育にどのようにいかしていきたいか」を記録し(以下「ポートフォリオ記録」と表記する)、日々の保育との循環を促すようにした(表2参照)。

### I-2 子どもの姿に基づく保育の若手保育者への継承

この園内研修を重ねる中で、子どもの姿に基づく保育を考えて言語化することが促され、保育の中で大切にしたいことが参加者間で共有されるにつれて、そのことを他の保育者(特に保育経験が少ない若手保育者)にどのように伝えるかが課題となった。そのため、園長の提案で各クラスでもエピソード記録をもとに担任保育者全員で話し合う「クラス会議」の機会を設けた。

1年目のクラス会議では、主担任保育者のエピソード記録をもとに話し合い、主担任保育者が大切にしたいことを他の担任保育者に伝え、他の担任保育者の思いや考えを聞く機会になった(中島, 2024, 2025b)。

2年目のクラス会議では、クラスの保育記録を書いて

いない他の担任保育者(特に若手保育者)のエピソード記録をもとに話し合った。その内容を園内研修で報告した際には、以下のような発言があった(中島, 2025ab)。

- ・子どもの主体的な遊びの捉え方やエピソード記録の書き方について助言できただけでなく、若手保育者の子どもの見方や気になっていること、悩んでいることを知ることができた。
- ・若手保育者の聞き役に回る事の大切さや、思いや考えを聞き取ることの難しさを感じた。
- ・若手保育者の問いに自分の体験もふまえて話す大切さを再認識した。
- ・その後も、思っていることを互いに話しやすくなった。そこで、次年度は定期的にエピソード記録をもとにしたクラス会議と、その報告をもとに話し合う園内研修を実施することを計画した。本研究はこのA園の試みを取り上げ、子どもの姿に基づく保育を若手保育者にどのように継承していくことができるかを検討する。

### I-3 本研究の目的

本研究は、若手保育者のエピソード記録をもとに話し合うクラス会議と、そのクラス会議の報告をもとに話し合う園内研修を実施したA園の試みを取り上げ、子どもの姿に基づく保育を若手保育者にどのように継承していくことができるかを検討することを目的とする。

## II 研究の方法

以下の要領で実施したクラス会議と園内研修の記録をもとに、子どもの姿に基づく保育を若手保育者にどのように継承していくことができるかを検討する。

### テーマ

これまでと同様に、「子どもの『主体的な遊び』とそのための環境構成・援助について考える」とした。

参加者（表3参照）

各クラスの主担任保育者に加えて、2グループある3歳未満児クラスのもう1グループのグループリーダーも参加した。筆者、園長、主任も参加した。

クラス会議と園内研修の進め方（表4参照）

始めにエピソード記録を書く担任保育者が集まり、筆者が講師となってエピソード記録の書き方を学ぶ研修を実施した。クラス会議は、担任保育者全員が集まる時間を確保し、エピソード記録をもとに話し合った（1時間程度）。その後、各クラスのクラス会議の報告をもとに話し合う園内研修の時間を確保した（2時間～2時間半程度）。1年間の保育を4期にわけているため、各期に1回実施することを計画していたが、開始が遅くなったため、3回の実施となった。

倫理的配慮

園長に研究協力について内諾を得た後、保育者に研究目的、方法、個人情報の保護等について口頭と文書で説明して研究協力を依頼すると、全員から文書での同意が

得られた。保護者にも研究の目的、個人情報の保護等について文書で説明して研究協力を依頼すると、全員から文書での同意が得られた。本研究は、筆者の勤務校の倫理審査委員会でも承認を得ている。

本研究で取り上げるクラス会議と園内研修

本研究では、保育者養成校卒業後に保育者となり、日々のクラスの保育記録を書く経験をしていない保育者を「若手保育者」とする。そして、園内研修の中で子どもの姿に基づく保育や若手保育者への助言について特に考え合った4事例を報告順に取り上げる。エピソード記録を書いたのは以下の保育者である（Z先生は他園で3年の保育経験があるが、A園での保育経験は1年目）。

事例1：0歳児クラス担任W先生（保育経験1年目）

事例2：2歳児クラス担任X先生（保育経験4年目）

事例3：3歳児クラス担任Y先生（保育経験8年目）

事例4：1歳児クラス担任Z先生（保育経験4年目）

Ⅲ 結果と考察

園内研修では、各クラスの主担任保育者がエピソード記録を紹介し、クラス会議の内容について報告した後、その内容をもとに話し合うようにした。

以下に、4事例のエピソード記録、エピソード記録をもとにしたクラス会議の報告、報告をもとにした話し合いについてまとめる。子どもの姿に基づく保育や、若手保育者への助言についての話し合いを中心に上げ、子どもの姿に基づく保育を若手保育者にどのように継承していくことができるかを考察する。

表3 園内研修の参加者

クラス	保育者：保育経験（この園内研修の参加経験）
0歳児	a先生：32年目（3年目） b先生：21年目（1年目）
1歳児	c先生：18年目（3年目） d先生：15年目（1年目）
2歳児	e先生：27年目（3年目） f先生：19年目（3年目）
3歳児	g先生：11年目（3年目）
4歳児	h先生：24年目（3年目）
5歳児	i先生：27年目（2年目）

注) 3歳未満児クラスは2グループにわかれているため、グループリーダーをしている保育者（b先生・d先生）も参加した。

表4 クラス会議と園内研修の流れ

園内研修前	<ul style="list-style-type: none"> <li>エピソード記録を書く保育者は、日々の保育をもとにSOAPと「具体化を促す問い」もふまえて以下のように書く。「取り上げた理由・みんなで検討したいこと」「エピソード名」「エピソード」「考察」</li> <li>書くことが難しい場合は、主担任保育者が助言をする。</li> </ul>
クラス会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>3歳未満児クラスは各クラスで、3歳以上児クラスは3クラス合同で行う。主担任保育者が司会や記録を担当する。</li> <li>エピソード記録を書いた保育者がエピソードを紹介し、「取り上げた理由・みんなで検討したいこと」をふまえて話し合う。</li> </ul>
園内研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆者は司会を担当し、SOAPと「具体化を促す問い」の関係を整理した資料（表1参照）を配付し、保育者がこの視点をふまえた話し合いができるように支援する。</li> <li>主担任保育者がクラス会議で取り上げたエピソード記録と、記録をもとに話し合った内容を報告し、その報告をもとに話し合いをする。その内容はICレコーダーで録音する。</li> </ul>
園内研修後	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者は「気づき」「気づきを今後の保育にどのようにいかしていきたいか」を記録する（表2参照）。</li> <li>筆者は録音データをもとに作成した園内研修記録を保育者に渡す。ポートフォリオ記録を受け取り、園内研修記録もふまえて園長・主任とも相談し、次回の園内研修を計画する。ポートフォリオ記録の内容を次回に資料として配付できるようにまとめる。</li> </ul>

Ⅲ-1 事例1：0歳児クラスW先生（第2回園内研修）

事例1の0歳児クラスW先生（保育経験1年目）のエピソード記録（表5-1参照）は、自分や他の子どもと一緒に遊ぶことを楽しむAの姿を取り上げていた（表5-1下線部①）。そして、その姿を他の保育者はどのように見るか、もっと遊びが楽しくなるにはどのようにするとよいかを検討したいと考えていた（下線部②）。

0歳児クラスでW先生と同じグループの主担任保育者a先生がクラス会議について報告した（表5-2参照）。

まずエピソード記録に取り上げたAの成長について話し合い（1）、そのことをふまえると、エピソード記録の始めに入園当初のAの姿も書くとはよかったのではないかと助言があった（2）。エピソード記録の子どもの姿からその成長を喜び合い（3）、子どもの姿をよく見て記録している、日頃の保育の中でも子どもたちに一番わらべ歌を歌ってくれているとW先生に伝えた（4）。このように先輩保育者から自分の成長を伝えてもらうことは、子どもの姿をもとに保育を考えていこうというW先生の思いをさらに強めたと考える。

表5-1 0歳児クラスW先生（保育経験1年目）

<p>【エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人遊びからみんなで楽しむ遊びへと変化し、保育者や友達と楽しみながら、様々な反応や動きなどを見ることができた<sup>①</sup>から。</li> <li>周りからみた視点でどのような表情や動きが見られたか、遊びの中でもっとこうしたら楽しい雰囲気を作れるか<sup>②</sup>などを検討したい。</li> </ul>
<p>【エピソード】 10月31日 「車ごっこ」</p> <p>Aちゃんは（中略）まてまて遊びや斜面遊び等で活発に動いて遊んだり、玩具を両手に持って保育者に渡しにきてくれたりなど、人と関わって遊ぶことを楽しんでいる。その日もテラスで遊んでいる時、ダンボールで作った押し車に興味を持ち、それを使って遊び始めた。両手で押しながらテラスをぐるぐる回り、物にぶつかりそうになった時は腰に力を入れて行きたい方向にまっすぐ向けていた。</p> <p>それを見ていたBちゃんがハイハイで近づき、押し車に乗った。Aちゃんは腰に力を入れて押そうとするが、前に押し出すことができなかつたので、私の方を見て助けを求めている。Aちゃんのベースに合わせてゆっくり押すと（中略）力を入れて押し始めた。私が「ブーン、ブーン」と車の音を声に出すと、Aちゃんもブーと一緒に言って楽しんでいた。（中略）</p> <p>それを見ていたCちゃんも興味を示し、押す側の方に入ろうとした。AちゃんはCちゃんが入れるスペースを作ってあげ、一緒に押しを楽しみ、私の方を見て笑顔で楽しさを表していた。Bちゃんが押し車を降りた後も、2人で押して遊んでいた。（後略）</p>
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Aちゃんは、誰かが遊びに入ってきて嫌がらず、一緒に楽しみたいというように感じた。友達の動きに合わせていることから、人の動きをしっかりと見ている<sup>①</sup>と感じた。</li> <li>保育者や友達と一緒に楽しさを共有できる遊び、環境<sup>②</sup>をこれからも作っていきたい。</li> </ul>

W先生が知りたかったもっと遊びがさらに楽しくなるにはどうすればよいかについても、他の保育者一人一人が自分の体験を伝えていた（5）。このような同じクラスの先輩保育者からの体験をふまえた助言は、その後の保育にすぐにかかして試みることができるだろう。

その後、このクラス会議の報告をもとに話し合いをした（表5-3参照）。主任が「顔が上を向きだした」とAの成長を語ったことをきっかけに、a先生は入園当初に「この子にとって」とどのようなことを考えて保育をしてきたかを振り返り、子ども一人一人の発達や動きをもとに保育を考えることの大切さを再確認していた（1）。

W先生が研修で学んできたわらべ歌をよく歌ってくれるという話を聞き、筆者が以前にa先生に聞いた話（午睡時に子どもを抱っこして元気よく「さんぽ」を歌って揺らすので、子どもが寝つけなかったこと）を話題にすると、a先生は当時のことを振り返り、「全然変わったね」とW先生の成長を再確認していた（2）。W先生にとって、自分が研修で学んできた遊びを先輩保育者に教え、子どもたちと一緒に楽しめたことは、この時期にどのような遊びが大切かを、子どもの姿をもとに確かめる機会にもなったと考える。

表5-2 園内研修での話し合いから（1）

<p>&lt;クラス会議の報告&gt;</p> <p>（1）エピソード記録に取り上げたAの成長</p> <p>a：Aちゃん（けがをしていて）入園の時にはぎりぎりギブスが取れてという状態でした。（中略）丁寧に見ていこうねって話してた子なのでまさかこの時期にもう歩くというのは予想外だったんですね。</p>
<p>（2）Aの成長が伝わりやすいエピソード記録の書き方</p> <p>a：最初ってこういう子だったというのをどこかに書いてたらよかつたんじゃないっていう指摘が2年目の〇先生からありました。</p>
<p>（3）0歳児クラスの子どもの成長</p> <p>a：こんな小さい子達なのに（中略）一緒に押すのに、友達が入るスペースを作ってあげたりとか（中略）0歳児でこんなことができるんだね、すごいねって話で盛り上がりました。（中略）お友達に関心をもつようになってきて、本当大きくなったねっていう話が出ました。</p>
<p>（4）W先生の成長</p> <p>a：W先生はまだ1年目で一日一日が初めてのことばかりなのに、しっかり子ども達一人一人のことをよく見てくださって。（中略）一番わらべ歌を歌ってくれるのはW先生だもんねという話を。ここまで書いてくれたし、しっかり子ども達の姿を見ててすごいねって</p>
<p>（5）W先生が検討したいことについて</p> <p>a：歌を楽しそうに歌を歌ったり、押し車の中に人形とか入れたら良かったんじゃないですか（中略）「どこ行くの」「いってらっしゃい」なんて声かけてますよって（中略）W先生がちよっと参考にさせてくださいってということで、話が終わったかな</p>

注）園内研修中での話し合いから、本文と関連する部分を抜粋した。表に記した数字は、本文中に記した数字と対応している。本文中の考察と特に関連する部分については下線を引いている。以下同じ。

表5-3 園内研修での話し合いから（2）

<p>&lt;クラス会議の報告を聞いて&gt;</p> <p>（1）エピソードに取り上げたAの成長とこれまでの保育</p> <p>主任：顔が上を向きだしたね。すごい視線が下だったから。</p> <p>a：確かに。（中略）最初月齢順でグループ分けをして（中略）よく考えてみようって。この子にとって、まだ歩行ができてなかつたし。（中略）（月齢が同じ子どもを）大きいグループの方にして、Aちゃんをこっち（保育室が広い低月齢児のグループ）に残した（中略）広い環境の中でしっかり遊ばせて動かしてあげたのがひょっとしたらつながってるのかな（中略）一人一人の発達、動きを見てあげるのって大事だなと。</p>
<p>（2）W先生の成長</p> <p>N：W先生がわらべ歌って、お勉強されたんですか？</p> <p>a：研修に行かれたんですよ。それからポンッと入ったみたいで、毎日歌ってます（中略）「それ知らない」「教えて」って言って。みんな歌って子ども達が遊んで、盛り上がるっていうのがあって。</p> <p>N：最初（中略）テンポがいい歌をすごく歌って（元気に「さんぽ」を歌って子どもを揺らして寝せようとしたと聞いた話をする）（中略）</p> <p>a：歌を歌いながら寝せてあげようと思ったんだけど。ちよっと歌の調子がね。本当にでもあれを思ったら、全然変わったね。</p>

注）Nは筆者。以下同じ。

この園内研修後のポートフォリオ記録に、a先生とb先生のいずれも、W先生の成長を確認できた、気づいたことや思ったことはすぐに話し合うようにしたいと記していた（表5-4参照）。

表5-4 園内研修後のポートフォリオ記録から

a先生	気づき ・W先生が記録を出してくれたことで、若手保育者の成長をみんなで確認できた。先輩の先生達が助言してくれたことは、きっと彼の力になり自信につながるだろうと感じた。
	気づきを今後の保育にどのようにいかしていきたいか ・日頃から保育をして気づいたことや思ったこと、エピソード等リアルタイムに話ができるとうれしかった。
b先生	気づき ・若い先生の思いがあり、成長をすごく感じた。クラス会議では、自分の思ったことを出し合うことができ、その場面のみではなく、その子の成長を振り返ることで、また保育がトータルして見えてくる。定期的にクラスで話し合えるといい。
	気づきを今後の保育にどのようにいかしていきたいか ・保育をする中で思ったことをすぐに話し合ったり、互いにアドバイスしていけたらと思う。その子どもに合ったアプローチの仕方等、みんなで考えていきたい。

注) 若手保育者への保育の継承とクラス内での話し合いについての内容を中心に抜粋した。以下同じ。

### Ⅲ-2 事例2：2歳児クラスX先生（第2回園内研修）

事例2のX先生（保育経験4年目）は、自分の思いを言葉にして伝えることが難しいDの姿をエピソード記録に取り上げた（表6-1参照）。この1年でDが自分の思いを伝えられるようになることを願い、担任保育者同士で話をしてきたことから（表6-1下線部①）、Dの姿に見られた変化（下線部②）を共有したいと思ったためである（下線部③）。そして、このエピソードの子どもたちの姿をもとに、「子ども達にとって」の遊びや「子ども主体」ということについて考察していた（下線部④）。

2歳児クラスでX先生と同じグループの主任保育者f先生がクラス会議について報告し、もう1グループの主任保育者e先生が補足をしていった（表6-2参照）。

まず、日頃のDについて話し合い、自分のことは自分でできて友達とのトラブルもあまりないため、保育者の関わり薄くなりがちになるので、しっかり関わっていこうと確認し合った（1）。子どもが自分の思いを伝えようと思えるにはどうするとよいか話し合う中で、X先生が「思いをしっかり聞いてあげる」と言った際には、e先生は言葉にできないことを答えさせることは「その子にとってどうか」という問いかけもしていた（2）。そして、「どうしたい？」と聞かれた時にすぐに答えられないということも大切にしていこうと話し合った（3）。この話し合いでX先生が自身の保育が「子どもにとってどうか」と振り返ったことは、その後の保育の中でD以外の子どもに対する関わりにもいかされたと考えられる。

f先生は「子どもの関わり方も見方も変わってきてる」とX先生の成長についても語り、その話を聞いたe先生は、昨年度一緒に2歳児クラスの担任をしていた時のX先生が子どもと関わる中でどのような考えを持っていたかも語った（表6-3参照）。事例1と同様

表6-1 2歳児クラスX先生（保育経験4年目）

<p>【エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと】 (Dは) 自分の思いを言葉にして伝えることが難しく、進級当初からこの1年で自分の思いをしっかり伝えられるようになるといいねと担任同士で話をしていた①。ここ最近、これまでとは違った友達との関わりやD自身から出てくる言葉や要求が多くなっている②こともあり、そんな姿を共有したい③と思い、取り上げた。</p>
<p>【エピソード】 11月8日 「この山なかなか登れないよ〜」 砂場で砂おこしをしていると、Dと一緒にトンネルを作ろう②とやって来た。私「いいよ！トンネル掘るなら、しっかりお山固めないね」D「Dちゃんもやるから、黄色のスコップちょうだい。大きくて長いので、線路描くね！」E、F、G、Hも一緒になり、山が完成。 手のひらやスコップの裏面を使って、山を固めていた所にIがやって来た。I「ねー、何してるの？」私「みんなで山を作ってトンネル掘るんよ。一緒にやる？」と聞いてみると、突然山に飛び乗り、壊して逃げようとした。私「みんなで頑張ってるんだから、壊して行くのは間違ってるよ」と伝えたが無反応。（中略） どうしようかと考えていた時に、D「おっと。この山なかなか登れないよ〜。登るのが難しい」と山を登り始めた。楽しそうに大笑いし、バランスを保ちながら山の上まで登った。D「スコップで足隠して！」私「みんなでDちゃんの足隠そう（中略）」と他児を誘った。山の上から「おーい」と手を振ったり、どんぐりを転がしたり（中略）やりたい子が次々にやって来たが、順番を待ちながら交代していた。</p>
<p>【考察】（前略）山が壊されるというハプニングを（中略）楽しい遊びに発展させることができたのはDのおかげだったと思う。（中略）大人は「トンネルはこうである」と（中略）いろんな段階を踏もうとするが、子ども達にとってはその過程よりもトンネルが掘れたという思い出が残れば楽しいになっているのかな？と感じた。子ども主体ってこういうことなんだと自分の経験を通して学べる出来事だった④。</p>

表6-2 園内研修での話し合いから

<p>&lt;クラス会議の報告&gt; (1) エピソードに取り上げたDとの関わりで大切にしたいこと f: Dちゃん何でも自分のことはもう自分でもするし、他の友達ともあまりトラブルになったりしないんですけど。（中略）保育者との関わりがちよっと薄くなりがちになってしまうので、（中略）しっかり関わって遊んだり、関わる必要だねって話したと思います。</p>
<p>(2) 自分の思いを伝えようと思うにはどうするとよいか e: 思いを伝えようと思うにはどうしたらいいんだろうって話をした時に（中略）X先生はその子の思いをしっかり（中略）どうしたいって聞いてあげるってところで（中略）なかなか言えないことって多いから、私自身本当にそれを答えさせることがいいのかなって思うことが時々あるって話をしました。で、どうしたい？に答えられないのってなぜなのかなって話に、つながっていききました。</p>
<p>(3) Dが「どうしたい？」に答えられないのはなぜか f: 決められないだけのこともあるとか。自分がするんじゃないって、大人にやってもらいたい。間違ったことを言ってはいけないという思いもあるのかもしれない。（中略）なんで「どうしたい？」って時にすぐ言えないのかってところも大切にしないといけないよねって話をみんなでした（後略）</p>

に、日々の保育の中でこのように若手保育者の成長を捉え、他の保育者と共有することは、その保育者にさらにもどのような経験を保障するかを考え合うためにも重要である。

表6-3 X先生がどのように成長しているか

<p>昨年度からのX先生の変化・成長</p> <p>f: X先生も去年とは全然子どもの関わり方も見方も変わってきてるなって私も感じて。(中略)よく子どものことも見てるなと思うし。(中略)ここは譲れないってところもX先生の中で感じられるし(中略)今はこうだよっていうのを、言葉できちんと伝えたりして(中略)</p> <p>e:嫌われたくないとかそういう感覚。だから泣かせないようにするとか。そんなふうな感覚があったって、X先生は自分で言ってた。</p>
---

この園内研修後のポートフォリオ記録に、e先生もf先生も、保育経験に関係なく日頃から子どもの内面や成長について話したいと記していた(表6-4参照)。

表6-4 園内研修後のポートフォリオ記録から

e先生	<p>気づき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・X先生の視点のおかげで、あまり自己主張をせず、おとなしい子との関わりにスポットを当てて話し合え、あまり表出しない子達の内面について話したりすることができた。</li> </ul>
	<p>気づきを今後の保育にどのようにいかしていきたいか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だいたい話題にのぼる子達は決まっているが、そうでない子達についても話せることは大事。エピソード記録はいい。</li> <li>・<u>経験が長い短いにかかわらず、疑問に感じたことやわからないことを話したり、良いと思ったことをほめ合ったりすることを大事にしたい。</u></li> </ul>
f先生	<p>気づき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>検討したい内容について、もう少し書いた保育者にその時の思いなど少し深く聞いてみても良かったかなと後から思った。</u></li> </ul> <p>気づきを今後の保育にどのようにいかしていきたいか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心の成長を感じる場面は担任同士で「～だったよ」「こんなこと話してたよ」などを出し合えると良いと感じた。</li> </ul>

III-3 事例3:3歳児クラスY先生(第2回園内研修)

事例3の3歳児クラスY先生(保育経験8年目)のエピソード記録(表7-1参照)は、泣いて訴えることが多く、どのように対応するとよいかわからなくなっているJの姿を取り上げていた(表7-1下線部①)。

3歳以上児クラスのクラス会議は3クラス合同で実施したため、3歳児クラスでY先生と保育をしている主担任保育者g先生が中心となって報告し、4歳児クラス主担任保育者h先生と5歳児クラス主担任保育者i先生が補足をしていった(表7-2参照)。

まずJについて、日頃から泣くことが多く、否定されたり何かを指摘されたりすることが「ひっかかる」ようで、「嫌い。見ないで」と言うことが挙げられた。その際、g先生は自分は「あまり言わない」、Jに話しかけるには「コツ」はいると語った(表7-2(1)下線部①)。また、g先生はJが泣いた場面を見ていたことと、Y先生のエピソード記録から、Jは本当に「ただ片づけがしたかった」という思いから泣いていたと読み取れたので、ここでのJの姿について読み取りが違っていたら関わり方も変えられたのではないかと語った(2)。

この話を聞き、i先生は、話し合いの中でY先生はそ

表7-1 3歳児クラスY先生(保育経験8年目)

<p>【エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと】</p> <p>Jの泣いて聞こうとしない、泣いたらどうにかなる、振り向いてもらえらという行動が気になった①。この場面だけでなく、今までも泣いて訴えることが多々あった。Jへの対応がわからなくなっている②。</p>
<p>【エピソード】11月7日「Jがやるんやった」</p> <p>(前略)それぞれ遊んでいた物を片付けようとしていた時、Kが自分の使った物を片付け、テラスに落ちていた積木を片付けようとしていた。その積み木はJが遊んでいた物だった。(中略)Kの行動にすぐに大きな声で泣き、「取らないで」と怒って押し倒す。Kはびっくりして何も言葉が出ず、必死に泣くのこらえていた。</p> <p>自分の使った物を片付けようとするJの気持ちもわかるが、(中略)Kの行動も間違っていない。Jに、いきなり大きな声で泣いて手を出すのではなくて言葉で伝えるように声をかける②と、言われたことが嫌で「Y先生嫌い、見ないで」と泣いて聞こうとしなかった。</p> <p>Jが落ち着いて、話をした。「K君が取ったのが嫌だった」とJの言葉があった。Kが片付けようとしてくれたことを伝えながら、泣くのではなくて「Jが片付けるから」と言ったら良いことを伝えると頷いた。</p>
<p>【考察】泣いたら友達や大人が聞いてくれる、振り向いてくれるわけではないことを伝えながら(中略)言葉で伝えられるようにその都度丁寧に伝えながら、J自身がわかっていけたらいいと思う。</p>

表7-2 園内研修での話し合いから(1)

<p>&lt;クラス会議の報告&gt;</p> <p>(1)エピソード記録に取り上げたJについて</p> <p>g:否定とか指摘されることがすごく本人の中で引っかかるみたいで(中略)「嫌い、見んで」と言う。自分も担任なんですけど、あまり言われないのは何ですかね。話しかけるのにコツはいる①と思います。</p>
<p>(2)Jの姿についての読み取りにもとづく関わり</p> <p>g:(Jが泣いた後は見ていて)その状況とこのエピソードも聞いて思ったのは、J君は本当にただ自分で片付けしたかった。(中略)友達と何かをするのはまだまだちょっと苦手なところがあるので、泣くという表出の仕方になったんじゃないかなと。(中略)どうしたらいいんだ、わからないよっていう泣きなのかな。Y先生が感じた、泣いたらどうにかなる、振り向いてもらえらというのではないのかなとは感じました。少しそれが変わってたら、少し関わり方ももしかしたら変えられたんじゃないかなと思っています。</p>
<p>(3)Y先生が本当に困っていることは何か</p> <p>i:その話をg先生が言った時は、Y先生もそこには気づいてた。そうだなって思うっていう話は最後してたですよ。</p> <p>h:Y先生の困り感とエピソードの内容が合っていない感じが私もしたから(中略)本当のY先生がどうしていいか困ってる所ってどこなのかなと思って、「泣いたらどうにかなるって思ってる場面が他にある?」みたいな話も少しした(中略)差は(中略)感じ取られてる感じがしたので、みんなでそういう所を見守ろうねみたいな話で終わった。</p>

のことに気づいていたと語った(3)。h先生は「Y先生の困り感とエピソードの内容が合っていない」と感じ、「泣いたらどうにかなる」と読み取った場面をY先生に具体的に挙げてもらった。そして、Y先生の悩みを一緒に整理していきながら、Jと関わる中でどのようなことを大切にして保育をしていくかを話し合った(3)。

Y先生にとって、このように自分が書いたエピソード記録の子どもの姿から、先輩保育者と一緒に思いや考え、願いを読み取り、何を大切にするかを考えたことは、自分の中の困り感を整理する機会にもなったと考える。

その後、クラス会議の報告をもとに話し合いをした(表7-3参照)。まず、主任や園長がJの育ちの過程で今の姿はどのように捉えられるかについて語った(1)。また、昨年度Jの担任だったe先生は、Y先生のエピソード記録にある「いきなり大きな声で泣いて手を出すのではなくて言葉で伝えるように声をかける」(表7-1下線部②)というの具体的などのような言葉だったのか聞いたかと尋ね、Jに否定の言葉を使うと泣いていたので、そのことがここでのJの姿に関係しているのではないかと語った(表7-3(2)下線部①)。

その話を聞き、筆者はg先生が語った「コツがある」とはそういうことか尋ねると、g先生はそれもあるが、「何でもない」ようなこともJは「怒られた」と受け取ってしまうため、「声かけ」には配慮していると語った((2)下線部②)。

表7-3 園内研修での話し合いから(2)

<p>&lt;クラス会議の報告を聞いて&gt;</p> <p>(1) Jの育ちの過程の中の今の姿</p> <p>主任: J君の表現の仕方が、泣くっていう種類なんだろうけど(中略)、少しずつその表現の仕方がいろいろ変わってくるというか。</p> <p>g: 泣かずに、待って解決できることが増えてきているから</p> <p>園長: 変わってはきてるんよね。その過程なんだろうね。</p>	
<p>(2) Jにとって保育者がどのように関わる必要があるか</p> <p>g: Y先生に対して、やっぱり攻撃的な否定したりするようなことを言うのは気になる。</p> <p>e: 「いきなり大きな声で泣いて手を出すのではなく、言葉で伝えるように声をかける」って文章があるんですけど、Y先生がどんな言葉で声かけたか覚えて聞いた?①</p> <p>g: 聞いてない。</p> <p>e: (昨年度) J君と関わるのに否定の言葉を使うと絶対泣いてたんよね。だから、まず「Jちゃん、自分で片付けたかったの?」って先に一回J君の気持ちを言葉にしてあげないと。で、「うん」って言うてからだったら、あんまり怒らなかつた気がするから。(中略) その辺がうまくいってなくて泣くことが多いんだったらあれかな①と</p> <p>g: 聞いてない。</p> <p>e: (昨年度) J君と関わるのに否定の言葉を使うと絶対泣いてたんよね。だから、まず「Jちゃん、自分で片付けたかったの?」って先に一回J君の気持ちを言葉にしてあげないと。で、「うん」って言うてからだったら、あんまり怒らなかつた気がするから。(中略) その辺がうまくいってなくて泣くことが多いんだったらあれかな①と</p> <p>N: コツがあるって言ったのはそういう感じのこと②ですか?</p> <p>g: それもちろんあるし。(中略) 何でもないことでも、それが怒られたって感じる(中略) こちらの声かけ次第で変わるんだったら、それはやっぱりやってあげないといけない②と。(中略)</p> <p>N: (Jが「見ないで」と言うのは) 責められるような感じがするってことなんですか?</p> <p>g: やっぱり、つい見ちゃうじゃないですか。(中略) で、ふと気づいてやめる子もいるけど、J君はウワーッ(と泣く)(中略)</p>	
<p>(3) Jが育っていく上で大切にしたい保育者の関わり</p> <p>主任: 自分の気持ちややりたいことを、伝えても大丈夫だよっていうのをずっと積み重ねてきた上で、やっぱり段々自分で表現できるようになると思うから。(中略)</p> <p>園長: そういう子って増えてるのかなって思うから、本当受け止めてあげないといけないね。さりげなく。</p> <p>g: さりげなく。あからさまにやったら怒る。</p> <p>園長: 本当、練習しないといけないね。</p>	

これらの話を聞き、園長・主任からは「自分の気持ちややりたいことを、伝えても大丈夫」という体験を積み

重ね、次第に泣くこと以外で自分を表現できるように、Jの思いを受け止めていこうという助言があった(3)。

園内研修後のポートフォリオ記録に、g先生は同じクラスのY先生とここまで深く話をしなかった、もっと色々なことを話し合うようにしたいと記していた(表7-4参照)。このクラス会議と園内研修は、g先生がY先生の悩みを理解し、日々の保育の中で何をどのように話し合うかを考える機会にもなっていたことがわかる。

表7-4 園内研修後のポートフォリオ記録から

g先生	<p>気づき</p> <p>・人の書いたものを話したので、しっかり内容を分かってないといけなくて、「なぜこうしたのか」や「自分だったらどうしたか」なども考えることができ、自分にとっても学びになった。</p>
	<p>気づきを今後の保育にどのようにいかしていきたいか</p> <p>・同じクラスの担任をしているが、今までここまで深く話したことはなかった。もっと色々なことを話し合えるようにしていきたい。</p>

### Ⅲ-4 事例4: 1歳児クラスZ先生(第3回園内研修)

事例4の1歳児クラス担任Z先生(保育経験4年目)のエピソード記録(表8-1参照)も、事例3のY先生と同様に、自分に対して否定的な態度をとり、どのように関わるとよいか悩んでいるLの姿を取り上げていた(表8-1下線部①)。

クラス会議の報告は、1歳児クラスでZ先生と同じグループの主任担任保育者c先生が行い、もう1グループのリーダーd先生が補足をしていった(表8-2参照)。

c先生はZ先生に「うまくいかない」(表8-1下線部①)とはどういうことかを尋ね、自分が言いすぎてしまうというZ先生の言葉から「どういうふうに言ってあげたらいいのか」という悩みだと捉えた(表8-2(1)下線部①)。そして、d先生は「痛い」という言葉はLには伝わりにくいのではないかと助言した(2)。

また、c先生はこのLの姿を見ていたため、「本当に楽しそう」で「一人で積んでグラグラするのを楽しむように私には見えたよ」と伝えていた(3)。自分の読み取りはZ先生とは違っていたと伝えようとしたと思われる。

その後、それぞれがLをどのように捉えているかを話し合う中で、「マイナスの言葉」にすぐに反応し、「反発」することが挙げられた(4)。その後も様々なLの姿について考え合う中で、「ちょっと気になってるところ」として、注意されたり何かを指摘されたりするとニヤニヤ笑うということが挙げられた(5)。また、LはZ先生に特に反動的に向かっていくが、自分はあまりそのようにされたことがないと語った((5)下線部②)。

この話し合いをふまえ、d先生が「マイナスの言葉」を使わずに伝えたり、他の保育者の関わり方を参考にしLの反応を見てみるように助言をすると、Z先生は

表8-1 1歳児クラスZ先生（保育経験4年目）

<p>【エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと】</p> <p>Lは（中略）大人の言うことを理解し、自分の思いも伝えることができ、友達や保育者と言葉のやりとりを楽しんでいる。（中略）しかし、玩具の取り合いになると言葉で伝えることが難しく、（中略）特に最近では、保育者が仲介に入り声をかけるが、「いや」と言い、本児の思いを受け止めようとしても、なかなかうまくいかないことが多い。今どういうふうに関わっていけばいいのだろうかと悩んでいる①</p>
<p>【エピソード】 1月28日 「自分を見てほしい」</p> <p>（前略）Lはままごとコーナーへ行き、お皿や食材を持って机の上でままごとをして楽しんでいた。（中略）気が付くとお皿やお弁当箱を重ねて遊んでいた。「危ないからお皿を重ねないでままごとをして遊ぼうか」と伝えたが、その遊びが楽しいのかなかなかやめられない。積んで遊びたいのかと思い、積木を用意してLに声をかけた。</p> <p>私「積んで遊ぶのは楽しいけど、お皿だと落ちた時に当たって痛いからやめようね。積木を用意してからこっちで遊ぼう」L「いや！」私「じゃあ、おままごとする？ご飯作って遊ぼうか？」L「いや！」（中略）私は「危ないから」という思いが強く、積んでいたお皿をおろした。するとLは怒って置いた皿を両手ではじき飛ばした。</p> <p>すぐに私は「Lちゃん！危ないから!!」と伝えたが、「いや！」と怒って手元にあったスプーンを私の方に投げ、私を押しした。「痛いからやめて!!」と強い口調で注意すると、Lの怒りが頂点に達し、私を何度も押した。私も怒って「やめて」と言って体を止めた。</p> <p>Lは床に寝そべり手足をジタバタして大泣きをした。しばらくしてもう一人の保育者②の元に行き、助けを求めるように大声で泣いて訴えていた。その保育者が落ち着かせると機嫌も戻り、いつも通りのLに戻った。</p>
<p>【考察】大人に「自分だけを見てほしい」という気持ちがあると普段から保育者同士で話し合っていた。（中略）今回の「いや！」は笑いながら言っていたこともあり、自分を見てほしいという気持ちと純粋に楽しいという気持ちがあったのだと思う。Lの気持ちを受け止め、寄り添いたいが、危ないこともきちんと伝えていきたい。</p>

注) 「もう一人の保育者」：同じグループで保育をしているc先生

表8-2 園内研修での話し合いから（1）

<p>&lt;クラス会議の報告&gt;</p> <p>(1) Z先生の悩みを理解する</p> <p>c:「うまくいかない」っていうのはどういうことなのって聞いたら（中略）「私が言いすぎちゃうんですね①」って言われていました。どういふうに言ってあげたらいいのかというのが悩みなのかな①と私は捉えていました。</p>
<p>(2) Lにとってわかりやすい伝え方</p> <p>c: d先生は「お皿だと落ちた時当たって痛いからやめようね」って言葉は伝わりにくいかもね。痛いからって言葉はイメージしにくいんじゃないかって</p>
<p>(3) 取り上げた場面でのLの姿についてのc先生の読み取り</p> <p>c: Lちゃんの表情は本当に楽しそうで（中略）一人で積んでグラグラするのを楽しむように私には見えたよってZ先生に話をしました。</p>
<p>(4) Lについて</p> <p>c: Lちゃんってどんな子なのか、どんなふうみんなには見えてるかっていうところで。Lちゃんは「だめ」「いけないよ」「やめて」、マイナスの言葉にすごい反応するよね。で、反発してくる。</p>
<p>(5) Lの姿で気になってるところ</p> <p>c: ちょっと気になってるところで、注意されたり「Lちゃんそれは〇〇だったでしょ」と言った時にニヤニヤ笑って反応する時があるんですけど。この時も（中略）「いやって笑って言うんです」ってZ先生が（中略）どうしたらいいかわからない時、自分をごまかすのか（中略）意地を張って反抗的な態度に出る。この時も物を投げたり、特にZ先生にすごく向かっていくんですね。私あんまりされたことなくて②。（中略）声をかけてほしいって表れんじゃないかって。</p>
<p>(6) Lへの関わり方</p> <p>c: d先生からマイナスの言葉を使わずに伝えることを心がけてみたら（中略）他の先生の関わり方を真似してやってみるとかして、反応見てみたらどうみたいなアドバイスがありました。Z先生も（中略）「先生がこの間言われてたみたいな言い方やってみたんですけど」とよく言うんですけど。うまくいく日とそうでない時がある。でも、伝え方言い方には気をつけたいいけない③と思いますって。</p>

「伝え方言い方には気をつけたいいけない」と語っていた（(6) 下線部③）。

その後、クラス会議の報告をもとに話し合いをした（表8-3参照）。この場面でのLの姿の読み取りがZ先生と違ってc先生は、日頃からLが「自分でやめてくれる」のを「待ちたい」ので、Lの様子を見ながら話していると語った（1）。LがZ先生にとる態度をc先生にあまり見せないのは、Lの思いを読み取り尊重した対応をしているためだと考えられるので、そのことをZ先生に伝えているか尋ねると、話しているとのことだった（2）。

筆者はエピソード記録とクラス会議の報告から、c先生が日頃からLの姿をどのように読み取り、何を大切にしているかがZ先生に十分に伝わってないのではないかと考えた。また、c先生がLに対して大切にしていることは、事例3でg先生が語った「コツ」（表7-2（1）下線部①）にも通じるのではないかと考え、c先生に尋ねてみると、発達の違いから「出し方が違う」かも知れないが、「そういうことですね」と語った（3）。

Lが注意されたり何かを指摘されたりすると笑うこと

（表8-2（5））については、i先生から自分が担任する5歳児に同様の姿があり、話をしてみると「心の裏」には様々な思いがあることがわかったという話があった（4）。主任からは、「そこがちょっとわかってあげてたら」、Z先生も「少し気持ちを大らかにもてるかも知れない」という話があった（5）。Lの姿からLの思いや考え、願いを丁寧に読み取ることで、Z先生の気持ちのありようも違ってくるのではないかという助言であった。

この園内研修後のポートフォリオ記録に、c先生はエピソード記録を見返し、他の保育者と話し合う中で、子どもの姿から思いや願いが見えてきた、Z先生と子どもや保育者について話す際にはよい所もしっかり伝えたいと記していた。d先生は子ども一人一人について知っておくことや、何をみつけ感じ合えるかが大事だと記していた（表8-4参照）。

### Ⅲ-5 今年度の園内研修を振り返って

第3回の最後に1年間の園内研修を振り返る機会を設けると、ほとんどの保育者がクラスの担任保育者全員で

表8-3 園内研修での話し合いから(2)

<p>&lt;クラス会議の報告を聞いて&gt;</p> <p>(1) 日頃のLの姿の読み取りをもとにしたc先生の対応</p> <p>c: やり続けるってことは、言われなくなかったんだろうって思うんで。そういう時は(中略)ちょっと楽しいことして「そろそろLちゃんやめたかな、どうかな」とわざと聞こえるように言って。そうすると自分でやめてくれるんですけど。それを私としては待ちたいから。</p>	
<p>(2) Z先生への日頃の助言</p> <p>N: そういう感じのことはZ先生には伝えられてるんですか?</p> <p>c: 言ってます。「あの人は言うとお余計なから、スンツてしてね」って。一同: 笑</p>	
<p>(3) 前回取り上げた子どもの姿についての読み取りとの関連</p> <p>N: g先生は「コツがある」って(中略)否定されるとだめだからって、同じような話がありましたよね。(中略)</p> <p>c: 出し方が少し違うかもだけど、そういうことですね。</p>	
<p>(4) Lの姿で気になってるところについて</p> <p>i: 笑って、私もうちのクラスの子(5歳児)でそういうことで気になったことがあって(中略)「困ってるんじゃないの?」って言ったらポロポロ泣き出してることがあったから(中略)そういう時の心の裏で、自分の気持ちを保とうとして笑うとか、c先生が言っていたみたいに、困ってるのを何とか隠そうとして笑うことがあるんだと</p>	
<p>(5) Lの姿の読み取りをもとにしたZ先生への助言</p> <p>主任: i先生が言っていたみたいに、そういうのあるだろうなと思って(中略)そこがちょっとわかってあげたら、Z先生もね(中略)少し気持ちを大らかにもてるかも知れない。</p>	

表8-4 園内研修後のポートフォリオ記録から

c先生	<p>気づき</p> <p>・文章にした後から見返したり他の保育者と話し合ううちに、子どもの姿から“こんな風に思っていたんじゃないか”“こういう風にしてほしいのか”…ということが見えてきた。</p> <p>・保育者同士で「こうしてみるといいよね」とアドバイスでき、子どもに対する関わり方を共有できた。</p>
	<p>気づきを今後の保育にどのようにいかしていきたいか</p> <p>・昼(午睡時)に子どもの様子や関わりについて話す時、「〇〇してあげるといいかもね」と言うこともあるが、「あの言い方(関わり方)良かったよ」といい所もしっかり伝えていこうと思う。</p>
d先生	<p>気づき</p> <p>・やはり担任でなければわからない姿もたくさんある。ちょっとした姿、成長、変化を担当全員と一緒に話して考えて笑い合えるのはすごく大切な時間だと思う。</p>
	<p>気づきを今後の保育にどのようにいかしていきたいか</p> <p>・子ども達一人ひとりへの関わり方、声のかけ方、見守り、色々なことを知り、わかっていると全然違うと思う。何を見つけたら、一緒に感じ合えるかも大事。</p>

子どもの話をする時間をもてたことが「すごくいい」「楽しい」「幸せ」「ありがたい」「うれしい」と語った。

若手保育者への保育の継承については、これまでも園内研修に参加してきた保育者が語っていた(表9参照)。日々の保育の中で話をし、悩んでいることを相談できるようにする(g先生)、保育のよい面を伝え、保育として大切なことを伝え合い引き継げるようにする(a先生)、自分たちがこれまでエピソード記録を書きしてきた経験からわかったことを経験してほしい(e先生、f先生)、自分が学んだことをもとにエピソード記録の書き方について助言ができた(c先生)、エピソード記録か

ら自分と同じ思いであると確認できた(h先生)等の発言があった。クラス内でエピソード記録をもとに話し合いをすると、保育環境等がわかっているため、園内研修で話し合うよりは理解しやすいのではないかと(i先生)という発言もあった。

表9 今年度の園内研修を振り返って(一部)

a先生	<p>・「これはいいと思う」「これ私も使う」と言ってあげると力になり、励みにもなる。伝え合うことはすごく大事</p> <p>・(子どもに)一生懸命に向かっている大事な保育は、伝え合えないといけない。これを若い先生達が引き継いでいく。</p>
c先生	<p>・エピソードの書き方は学んだことを教えることができた。</p>
e先生	<p>・自分も書くことで、エピソードの選び方や記録の仕方を学んできた。これから経験する人達にもいい機会になる。</p> <p>・みんな悩むと言うが、そのことが大事。エピソードは同じ立場で子どもを見て書くので、一緒に考えられるいい機会になる。</p>
f先生	<p>・一緒に組む先生達の思いが聞けたりするのはよかった。</p> <p>・書いてみてわかることがある。今回書いた先生も、書いてみることでそういうことを感じていたらいいなと思う。</p>
g先生	<p>・悩みにフォーカスした内容になったが、普段の保育でそういう相談をほおしてない。しっかり話さないといけないが、なかなかうまくいってない。自分が変わっていかないといけない。</p>
h先生	<p>・エピソードを読み、子どもの状況を同じように捉えていると思うと、嬉しくなった。</p>
i先生	<p>・エピソード記録を書くのはやはり難しい。ただ、クラス会議では部屋や園庭の雰囲気もわかった上で聞くので、イメージして理解する所はすごく多いのではないと思う。</p>

#### IV 総合考察

本研究で取り上げたA園のクラス会議と園内研修の試みをもとに、子どもの姿に基づく保育を若手保育者にどのように継承していくことができるかを考察する。

事例で取り上げた若手保育者は、クラスの保育記録を書きしていないため、「子どもの『主体的な遊び』とそのための環境構成・援助について考える」というテーマでエピソード記録を書くことは、日々の保育の中で子どもの姿をよく見て、自分の保育について振り返る機会となった。「取り上げた理由・みんなで検討したいこと」を書くことで、同じクラスの先輩保育者に話したいことを明確にでき、他の保育者も話し合う視点をもつことができた。

クラスで話し合う場合は、取り上げた場面を他の保育者も見えていたり、環境もわかっているため、若手保育者のエピソード記録の内容についても理解しやすかった。主担任保育者はこれまでの園内研修の体験をいかして話し合いを進め、エピソード記録と若手保育者の話から、「子どもにとってどうか」という問いかけもしていた。

若手保育者は自分が書いたエピソード記録の子どもの姿から、先輩保育者とその子どもの思いや考え、願いを読み取り、どのようなことを大切に保育をしていく

かを考えたり、自分が知りたいことについて体験をふまえた助言を得ることができた。また、子どもの姿をよく見ていると具体的に伝えてもらう（事例1）、自分の保育が子どもにとってどうかと振り返る（事例2）、自分の中の困り感を整理する（事例3、事例4）等の体験もしながら、その後の保育のための具体的手がかりを得ていた。このようなクラス会議は、若手保育者に子どもの姿に基づく保育を継承していく営みになったと考える。

園内研修でこのクラス会議の報告をもとに話し合うことは、若手保育者に子どもの姿に基づく保育をどのように継承していくかを考え合う機会になった。この園内研修から、以下の点が重要であることが明らかとなった。

まず、「保育者の経験に基づく知見」を若手保育者が理解できるように具体的にどのように伝えるかをさらに検討することである。事例3や事例4で若手保育者が対応に悩んでいた子どもの姿が、主担任保育者のg先生、c先生との間であまり見られなかったのは、その子どもの姿から読み取った思いや考え、願いを尊重した保育をしているためだと考えられる。しかし、保育の中で若手保育者にそのことは伝わっていなかった。「どのようにする（言う）とよいか」という答えを求めがちになる若手保育者に、自分の体験をふまえて子どもの姿に基づく保育を理解できるように具体的にどのように伝えるかを考え合う必要がある。

また、このような「保育者の経験に基づく知見」をどのように蓄積していくかをさらに検討することも必要である。事例3では、Jへの対応について悩む若手保育者のエピソード記録を読んだe先生が、前年度にJを担当した時に大切にしていたことを語り、そのことが今も大切であることを確認した。事例4では、c先生がLと関わる上で大切にしていることを聞いた筆者は、そのことが事例3でg先生がJと関わる上で「コツ」がいると語ったことと通じていることを確認した。このように、一人一人の子どもの姿に基づく保育をする上でそれぞれの保育者が大切にしていることを関連づけ共有しながら、若手保育者に伝えたい「保育者の経験に基づく知見」をどのように蓄積していくかを考え合う必要がある。

上記の点を検討する際には、目の前の子どもの姿だけを見て考えることが多い若手保育者が「その姿はその子どもの育ちの過程の中でどのように捉えられるか」という視点からも考えられるようにしていくことが重要である。この視点については、園内研修の中で園長・主任がよく言及していた。若手保育者がこのような視点をもてるようになると、事例4で主任が「そこがちょっとわかってあげたら」「少し気持ちを大らかにもてるかも知れない」と語っていたように、対応に困っている子どもと向き合う時の気持ちのありようも違ってくるだろう。

## V 今後の課題

A園では次年度もこのクラス会議と園内研修を実施するため、今後も園内研修に参加しながら上記の点について保育者と一緒に検討していきたい。

また、この園内研修の中で、ほとんどの保育者が子どものことを話し合う時間を確保してもらえてよかったと語り、ポートフォリオ記録にも今後も日々の保育の中で話し合うようにしたいと記していた。子どもの姿に基づく保育を継承していくためにはこの営みが不可欠となるが、一人一人の保育者の努力だけに委ねるのではなく、そのためにどのような仕組みをつくることができるのかも検討していきたい。

## 引用文献

- 保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会（2020）議論のまとめ－「中間的な論点の整理」における総論的事項に関する考察を中心に－。
- 河邊貴子（2019a）「驚き」や「喜び」を記録し、子どもの育ちを読み取って、次の援助につなげる。これからの幼児教育，2019年春号，2-5。
- 河邊貴子（2019b）保育の計画につながる保育記録とは。子ども学，7，141-160。
- Korthagen, F.A.J., Koster, B., Lagerwerf, B. & Wubbels, T. (2001) *Linking practice and theory: The Pedagogy of Realistic Teacher Education*. Routledge.
- （武田信子監訳（2010）教師教育学：理論と実践をつなぐリアリスティックアプローチ。学文社。）
- 中島寿子（2024）子どもの姿に基づく保育を共有するための園内研修。山口大学教育学部研究論叢，73，265-274。
- 中島寿子（2025a）子どもの姿に基づく保育を共有するための園内研修（2）。山口大学教育学部研究論叢，74，127-136。
- 中島寿子（2025b）子どもの姿に基づく保育を言語化するための園内研修のための支援。山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要，60，193-202。
- 幼児教育の実践の質向上に関する検討会（2020）幼児教育の質の向上について（中間報告）。

## 謝辞

本研究にご協力いただきました保育所の先生方、保護者の皆様、研究協力者の先生方に心よりお礼申し上げます。